

栃木県立真岡北陵高等学校 創立90周年記念式典



同窓会報



北陵

会報 第22号

●発行所●
栃木県立真岡北陵
高等学校同窓会
●編集●
同上編集委員会
●印刷所●
こだま印刷

新たな伝統を築いて



同窓会会長 菊地恒三郎

会員の皆様には、同窓会の諸活動に種々ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

各位の温かいご理解、ご支援のたまものであり、衷心より感謝を申し上げます。同窓会の事業であります。

に努められている農業者の皆さんの多くが同窓生であり、農業の発展に寄与されており、誠にご喜ばしいことであると。

平成十年の幕が開き二月には長野にて冬期オリピックが行なわれます。世界各国の方々が目をみはる祭典があり素晴らしい年であります。

我が母校も昨年は、九十周年の式典が開催され会員の皆様には多大なご協力をいただき感謝致します。八十七年にわたり、優秀な農業後継者の育成教育を努めてきた真岡農業高校も、「真岡北陵高校」と命名されて、多機能高校にふさわしくすば

らしい式典ができました。新風の舞い上がる様を目にし、誇りに思います。本校を巣立つ諸君のすばらしい未来を実現できるように祈願します。



平成三年卒 真岡支部 櫻井一郎

創立九十周年を迎えて



学校長 山口 祐 司

同窓生の皆様には常日頃から母校に対してご支援・ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

また、次に列記する記念事業も滞りなく終了することができましたのも、同窓生の皆様の温かいお力添えの賜であります。

さて、本年度は学科再編三年目を迎える、この春には、商業系の学科・福祉系の学科の卒業生をはじめ送り出すことになっております。

最後に申し上げますが、今後とも母校に対して陰に陽にご支援下さいますようお願い申し上げます。

この一年間わたしなりに同窓会青年部長として努力してきましたが、まだまだやり残したことが多いため、これからは母校と母校同窓会のために協力したいと考えています。

先の実岡市の市長選挙において、本校同窓会長の菊地恒三郎氏が、見事五選を果たしました。今後の、ますますの御活躍を御祈念致します。

菊地氏 真岡市長 五選 成る!!

成る!!

先の実岡市の市長選挙において、本校同窓会長の菊地恒三郎氏が、見事五選を果たしました。今後の、ますますの御活躍を御祈念致します。

本校は平成九年度創立九十周年の節目を迎えました。この九十年は、創立以来苦勞に苦勞を重ねて本校の経営にあたられた歴代校長先生をはじめ、多数の教職員並びに多くの同窓生が思いを込めて造り上げた尊い歴史が刻まれています。

卒業生の数も一万四千余名におよび、地域にあ

また、次に列記する記念事業も滞りなく終了することができましたのも、同窓生の皆様の温かいお力添えの賜であります。

さて、本年度は学科再編三年目を迎える、この春には、商業系の学科・福祉系の学科の卒業生をはじめ送り出すことになっております。

最後に申し上げますが、今後とも母校に対して陰に陽にご支援下さいますようお願い申し上げます。

先の実岡市の市長選挙において、本校同窓会長の菊地恒三郎氏が、見事五選を果たしました。今後の、ますますの御活躍を御祈念致します。

叙勲 おめでとうございます

叙勲受賞に思う



昭和十一年度卒業
宇都宮支部 勝田 正

平成八年十一月八日、秋の叙勲にあたり、東京虎の門ホテルバスタールにおいて、国家公安委員会委員長から、勲四等瑞宝章の伝達を受け、午後には、皇居豊明殿において、天皇陛下の拝謁を賜わり、芳らしいの御言葉を戴いた。

只只恐懼感激の極みであつた。永年に亘って、警察官として、治安維持にあたり、その功を認められた結果であるが、身に余る光栄なことである。叙勲受賞にあたり、自分の人生を顧みて、感じていることを述べてみたい。昭和八年三月、学校に入学、三年間教育を受ける。賞は狐塚清五郎校長のもと小倉・山田・青木・高橋・西村等の個性と経験豊かな立派な先生方からおられた。教課外においても温い薫陶を受けた。

青年部長として



昭和十一年度卒業
大内支部 添谷 定男

私は韓国で小学校教員を九年、内二年は校長を勤め終戦と同時に帰国し小学校教員を三十一、内教頭十三年校長十六年勤めることが出来た。

教員になって五年目抜擢されて日本人学校の教員になり、六年生十名と四年生十四名の複式学級の担任となった。六年生十名は全員中学校への進学希望であり、しかも希望校は父兄の本籍地の中

戦友は、この大戦で艦と運命を共にし、海の藻屑と消えた。生と死の運命をつよく感じた時代であつた。

昭和九年にはじまる大野原の開墾事業は、つよい思い出に残り、人間形成にも役立つことと思われる。

卒業後、海軍を志願、軍艦陸奥、長門に乘組み、戦務に従事したが、胸部疾患を病み、志半ばにして兵役を去つた。

昭和十八年八月、太平洋戦争のはじまる三ヶ月前であつた。多くの

強い希望により十名全員を夜十一時まで指導することになった。三学期には殆どどの児童が教科書内の問題なら満点を取るようになった。

昭和十五年でも部屋の中には丸火鉢一個でヤカシが掛かっているだけ。それでも児童達は一年間欠席する者は一人もいなかったし、風邪をひく者もいなかった。受験のため全国に飛んだが全員

合格し児童と共に涙を流し喜んだ。教員生活八年目郡内ただ一校の日本人学校の校長に抜擢された。校長と言つても職員は私一人だけだ。

昭和十一年度卒業
大内支部 添谷 定男

友人達である。逆境のなかにあつてこれほど励まされ、勇気づけられたことか。改めて感謝と御恩を申し上げたい。

昭和十九年四月に、警視長に昇進、退官した。このように述べると、且且とした道のように思われるが、山あり川あり谷ありの人生であつた。

その間、激励し、慰め支えてくれたのは、今は亡き妻と、そして郷里の

四十年の教員生活は平坦な道ばかりでなく想像を絶する起伏があり。いつも校長先生や先輩先生方の指導を受け、また父兄のご協力を得て何とか大過なく勤めることが出来たのに、このたびは「勲五等瑞宝章」の受賞に浴し感激のきわみです。最後にになりましたが母校の限りないご発展を念じます。

昭和十一年度卒業
大内支部 添谷 定男



報徳寮の思い出



昭和十六年度卒業
大内支部 菅谷 忠太

私は、昨年四月春の叙勲にあたり、計からずも勲五等瑞宝章を受賞いたしました。又昨年は本校におきましても創立九十周年と云う銘記すべき年であり、感慨深いものがありました。これも偏に

同窓会皆様を初め多くの方々のお陰でありまして、心から感謝申し上げます。私は、昭和十四年四月入学十六年十二月繰上げ卒業（大東亜戦争突入のため）であります。定員は五十人であり、私達が最後でありました。一年生の時は全校合せて一五〇人でありまして、非常に

に家族的雰囲気の中で過ごすことが出来ました。又この時期は「農人教育」に力を入れ特に報徳精神の高揚はいやが上にも強く推し進められました。報徳寮における教育もその一環でした。全寮制であり生活を通して多くを学ぶことが出来ました。当時を思い出すと部屋の掃除から炊事まで自分達で行ないました。炊事や風呂の燃料は薪でした。又電燈なく石油ランプと云う生活でした。朝は暗いうちに起き東の空に向つて「弥栄」を唱え折り進む我等に歓喜ありとなつております。今に

叙勲に浴して



昭和二十年度卒業
山前支部 水沼 卯平

私は戦時中昭和十八年春に入学し終戦は最終学年の夏でした。食糧増産と軍事教練が主となる学業でした。それでも報徳寮の三ヶ月の寮生活規則正しい団体生活と人間性豊かな友愛の協同精神。北海道への三ヶ月の授農隊、今振り返り人生に役立つ貴い経験であり教訓があつたと確信し感謝して居ります。

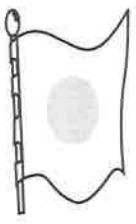
終戦になり学業に専念でき民主主義の教育については特別講師による数多い講話を聞き自由主義とは権利と義務があると教えられました。さて私事はからずも平成九年春の叙勲にあたり、勲五等瑞宝章を受賞する栄に浴し身に余る光栄と感激致して居ります。この立派な章を戴くことが出来ましたのは消防功勞

報徳精神一色であり、私達はこの様な中から無形の何かを学ぶことが出来たものと思ひます。それは友情の強い絆や、耐える力、働く欲び、等々人間として沢山のことを会得したように思います。

私達在校中の校歌の三節目には次の様な歌詞となつております。名も芳しき桜町 心血そそぎし農聖の 偉業の跡を偲びては 報徳精神いや鍛え

第二の農聖自任して 進む我等に歓喜あり となつております。今に

今後はこの栄譽に恥ることのないよう一層精進して参りたいと思ひますので御指導を戴きたいと思ひます。さて母校も校名が北陵高校になり創立九十年の歴史のある伝統校として発展する総合選択制専門高校として生まれ変わり発展して居りますこと喜ばしいことです。最後に栃木県立真岡北陵高校の限りない繁栄と同窓会の益々の発展を御祈願申し上げます。



農業士就任おめでとう

農業士になつて！



昭和三十六年度卒業
物部支部
一木 幹 夫

いかに生産コストを下げ
省力化できるか、いかに
安全で、高品質なものが
できるか。それが競争力
であります。消費者の皆
さんが安心して買ってくれる
供給する事です。
又農業者の高年令化も
大きな問題であると思
います。農家の子弟の農業
離れが加速され、若い後
継者が少なくなつて来て
います。若い人達に魅力
を感じる、明るい、豊か
な、ゆとり、のある農業
にしてゆく事が、私達、
農業士に課せられた、大
きな課題です。
私の地域では、今、担
い手関連の国道整備事業
が実施されております。
一日も早い全面完成が望
まれております。農地を
集団化する事により、生
産コストを大幅に下げる
事ができます。又担い手
への農地の集積を進める
為大区画の水田を造成し
ていきます。農地の流動化
を推進していかなければ
ならないと思つています。
二十一世紀はもう目の
前まで来ています。豊か
な、明るい未来のある地
域農業の実現、担い手の
育成に微力ではありますが
が努力していきたいと思
います。先輩の皆様、関
係機関の皆様の御指導を
お願い致します。

魅力ある農業を目指す



昭和四十二年卒業
南河内町支部
上野 和 明

私は昭和四十二年に卒
業と同時に、魅力ある農
業をめざし就農しました。
そして、4HCから始ま
りいろいろな組織活動に
より得た多くの友人が私
の宝です。
平成六年には、栃木県
の代表として官中新嘗祭
献穀米の奉耕者選ばれ、
又平成九年一月八日、栃
木県農業士に認定を受け
るなど、百姓冥利に尽き
る思いです。
今回、新農業士八名の

改めて、その職責に対し
身の引き締まる思いです。
今、農業を見つめると
き、日本の農業は国際化
の中で、早急な対応が必
要だと思つています。コメも
そうですが、野菜にして
も全体の三割を超える量
が外国から輸入されてい
る今日、国内の産地間の
競争もありますが、外国
との競争でもあるのです。
私の地域では、今、担
い手関連の国道整備事業
が実施されております。
一日も早い全面完成が望
まれております。農地を
集団化する事により、生
産コストを大幅に下げる
事ができます。又担い手
への農地の集積を進める
為大区画の水田を造成し
ていきます。農地の流動化
を推進していかなければ
ならないと思つています。
二十一世紀はもう目の
前まで来ています。豊か
な、明るい未来のある地
域農業の実現、担い手の
育成に微力ではありますが
が努力していきたいと思
います。先輩の皆様、関
係機関の皆様の御指導を
お願い致します。



内、三名が真岡農業高等
学校の先輩後輩で心強い
思いです。
農業士会の中には、専
門部会が十一部会ありま
す。私は耕種部会に属し、
各種の事業に参加させて
頂きましたが、先輩農業
士の方々の意欲的な素晴
しい経営者ばかりで、自
分の経営や考え方など学
ぶことはかりです。又、
各地域での活躍にも敬服
しているところです。私
も、諸先輩についていけ
るよう、農業士活動、
組織活動、地域活動、講
習会、講演会等には積極
的に参加し、地域や組織
の仲間に情報の提供をす
る事が私の仕事と考えて
おります。
しかし、昨今の農業を
取り巻く環境は、農畜産
物の輸入の自由化、新食
糧法の施行、農畜産物の
価格の低迷と厳しいこと
ろですが、今、農業だけ
が厳しいではありません。
今後魅力ある農業を
めざし、多くの後継者が
喜んで就農できる環境作
りに微力ながら努力して
参りたいと思つておりま
す。今後関係機関、諸
先輩方のご指導よろしく
お願い致します。

今日あるを
感謝し
最善を
尽くす

優良農家紹介

私の苺栽培



昭和四十三年卒業
真岡支部
横塚 功

私は、昭和四十三年度畜
産科卒業と同時に肥育豚の
経営を開始しましたが数年
は順調でしたが当時オイル
ショック等があり断念す
る事となり、結果として
結婚後、我が家では、苺栽
培を導入。当時は、ダナー
種が主流でやがてレイコ
女峰、とちおとめという品
種の歴史の中で平成八年六月
六名の仲間と苺の養液栽培
を導入しました。
一般にロックウール栽培
というものです。
私達は、誰もが簡単に品
質が良く、収量も上がると
いう思いで着手したわけ
ですが、一作が終わって反省
会をもつた時各人が、「こ
んなはずではなかった」と
いう思いでした。結果とし
て多くの問題、課題がでて
一作目の反省点をクリアで
きるよう現在ガンパッテま
す。ロックウール栽培と土耕と
のちがいは作業環境がまる
でちがいます。育苗時期か
ら土を一切使用しません。
収穫作業等で女性はスカ
イ姿でできます。土耕とち
がいは毎日の非液PH、EC
の状況等を記録しなくては
なりません。この記録が将
来の苺栽培にたいへん役に
立つよう思われます。と
りあえず数年後には反収七
トン、最終目標は反収十ト
ンの収量に向かって歩みだ
して行きます。また、この養
液栽培には大きな問題が
いくつかあります。
それは、設備費が高価に
なってしまうことです。そ
して、培地が、土のように
永久的ではないこと。
廃棄処分する時の公害問題
等があるのではないでしょ
うか。
我が家では「とちおとめ」
をロックウール栽培し土耕
は女峰と三品種を栽培し現在
女峰での灌水時に地下水を
温めて給水して試験をして
います。
水温を上げることによつ
て根にストレスをかけない
という事がねらいです。
私は、今後更なる努力を
続け、よりよい農業経営を
目指したいと思つています。

私の農業



昭和四十九年度卒業
山前支部
永岡 恒 夫

私は、昭和四十九年度
に卒業し、同時に就農し
ました。
当時は、水稲と苺が中
心の経営を、両親で行な
っていましたが、私の就
農と時を同じくして、連
棟ハウスを建設しトマト
栽培を経営に取り入れま
した。当時からトマトは
主に私が担当となり栽培
しておりましたのでおの
ずと分担がなされて、結
婚をしてからは、完全に
トマト専業となり、苺が
両親、水稲を協同とい
う型になり、それは現在
も同じです。
トマトの経営は、十年
前に当時は新しい技術で
あった、ロックウール栽
培に踏みきり、規模拡大
より既存の施設で、単収
を上げる方向に道を求め
経営を行なってきました。
出荷の基本は、全量農協
出荷で行なっておりまし
て、近年の農協合併によ
り、新たに流通センター
での機械選別が始まりお
のずと施設の規模拡大の
気持ちが出てきました。
四年前に、地域での土地
改良事業が始まったのを
契機に、既存のハウスを
取り壊し、ウルグアイラ
ウンド対策事業の補助を
得て、最新式の大型ハウ
スを、千坪ほど新設し
ました。と同時に両親も
苺を楽しんで作れる面積
に減らして、健康第一の
栽培面積となりました。
就農後、二十年にして
経営の基盤が整って、今
後はより高度な技術を身
につけ、厳しさの増すこ
れからの時代を、乗り切
りたい、思っています。
私は、数多い職種の中
から農業を選び、経済的

わが家の農業



昭和五十五年卒業
大内支部
小林 亨

私は、昭和五十五年
に母校の農業科を卒業後
農短大(今の栃農大)に
二年間通い卒業と同時に
就農しました。当時は、
イチゴと水稲と加工用ト
マトを栽培してました。
しかし、あまり収益の上
がらない加工用トマト栽
培をやめ契約南果栽培に
変更したがやはり結果は
同じで、数年前から現在
のイチゴと水稲の二本立
での栽培をしています。
水稲は二百aほど栽培し
ていますが、供給過剰に
よる米あまり、米価格低
迷とあまり良い状況では
ありません。また、機械
化によって省力化ができ
る反面設備投資による機
械化貧乏は他人事ではあ
りません。この為私は、
水稲にあまり力を入れず
イチゴ栽培を中心と考え
てきました。現在イチゴ
の栽培面積は五十アール
です。イチゴ栽培は高収
入が得られる代わりにそ
れなりの技術と労力が必
要です。就農前は、無加
温のパイプハウスで品種
は麗紅を栽培してしまし
たが、私が就農してから
ウォーターカーテンの連
棟ハウスを建てて単棟も
ウォーターカーテンに改
良し品種もいまだに現役
の女峰を取り入れました。
しかし、土耕育苗せいか
自然の影響が大きく出荷
時期の調整などできる物
ではありませんでした。
その後、地元で出荷時期
を早められる夜冷施設の
導入により安定したイチ
ゴ栽培が出来るようにな
りました。現在は、昨年
導入した高所ベンチでの
ロックウール栽培設備の
導入により作業環境の改
善を図りました。今まで
は、中腰での長時間の取
穫作業でしたがこの設備
の導入により、立ったま
まの姿勢で作業できるた
め腰も痛くならず作業能
率も上がりました。また、
土壌消毒もいらず自然環
境や人体にも良いよう
です。面積は、二十アール
と全体の半分以下ですが
将来的にはこの設備の面
積を増やして行きたいと
思っています。



平成5年度 真岡市農業者海外研修

な面で農業を見る事が、
多々ありましたが、今後
は、自信と誇りを持って
経営をしていきたいと
思っています。

優良農家紹介

イチゴ栽培に生きる

昭和四十二年卒業

物部支部

白 茂 晴 雄



私は、昭和四十二年度、真岡農業高等学校農業科を卒業と同時に就農致しました。当時の農業経営は、米、苺、ナスを作っており、米はダナーの路地栽培でした。

私が農業をするようになり、パイプハウスを導入して規模拡大を計りました。その後ダナーから麗紅を栽培してありましたが労働面に問題があり、結婚と同時に連棟ハウス（四百坪）又パイプハウスはウオーターカーテン、

現在、苺三十五アール、米一六〇アール、ナス十五アールを経営しております。就農して三十年が過ぎ苺生産者の平均年齢も年ごとに高齢化して、現在では五十代後半にまなつてしまっています。

私の農業経営

昭和四十二年卒業

田野支部

浜 野 耕 司



私は昭和四十二年度、卒業し、不安をいだきながら、就農いたしました。その当時、我が家の経営は水稲、たばこを主に酪農、麦作の複合経営でした。

私が就農してから労働力の面から、酪農と麦作をやめて、苺が注目視され始めましたので取り組みました。

その当時、農業規模は水稲二〇アール、たば

地域の様子も変わり田には草が生い茂り、畑も同じ様な所が随分と見られる様になっていきます。

これからはますます高齢化が進み後継者不足など激変に対応できるように、農協を中心としてこれらの農業に取り組んで行きたいと思っています。

乾燥施設へ入会して来て、昨年は、たばこ面積三〇〇アールを耕作するまでになりました。又、今年は一〇アール増反し三二〇アール申請しました。



面積の増反に共ないほとんどの増反のため、土壤消毒を行なっています。完全ではなく病害が多発し、薬剤散布も容易ではありません。

現在の家族労働力三人では、これからの増反は限度かと思っています。今後は適正な作柄で、省力化に努め品質の向上をめざしていきたいと思っています。

農業をめざして

昭和五十二年卒業

上三川支部

田 村 孝 雄



私は在学中に、私の歩む道と題した作文の問題が出されました。それまでは漠然と生活して来た中で考えさせられました。

小さい頃から親に、「おまえは農家の長男なんだから農業高校へ進学しろ」と、言われ続けなんの抵抗もなしに高校へと進学しました。ところが、今まで学んで来た勉強では味わえなかったものが、この学校にはあったのです。

それは机の上だけの勉強ではなく、作業実習などで作物を育てる楽しさが分かったのです。それから、授業で習ったことを家で実践してみたりして、家族との会話もはずみ大変ながらも、一

経営面では、就農当時水稲、麦、干瓢などを主に作付けていましたが、夏場の干瓢時期には天気に左右される事が多く毎日平均に乾燥出来るように乾燥機を入れたり、年

生徒会活動報告

生徒会顧問 森 戸 滋

今年度の生徒会活動は、新入生対象の部活動紹介から始まりました。本校では入学後、「一年生全員が部活動に加入する」という方針で指導を行っています。数多くの生徒が三年生まで続けていくようなこの行事を行いました。

の基本となる生徒総会。前年度全く活動のなかった海外研究部、美術部そしてアマチュア無線部が廃部となりました。また、新設の学科に係のある商業部（旧商業経済研究同好会）とボランティア部（旧オムニ二二）が、部に昇格しました。さらに、会長から「学校内に

間の作業時間の均一化を図るために干瓢に変わるものとしてカボチャ、トウモロコシを作り、後作にホーレン草を作付して来ました。

現在の作付面積は水稲

二五〇a、ビール麦一〇〇a、カボチャ四〇a、トウモロコシ五五a、小松菜四〇a、ホーレン草一〇〇aとなっております。

なるべく連作を避けるように作付しています。又化学肥料に頼らず有機質を多く施すように、養豚農家より糞尿をもらい稲わらや麦わらなどで完熟堆肥を作り、土作りを一番に考えています。

又優良農家表彰の名に恥じないように、努力して行きたいと思っています。

お互いの学校紹介を行ったりしました。昼食は本校生による手作りカレーライスを、皆で楽しく食べました。お互いの学校にとつて、非常に有意義な一日になりました。

夏休みには、「真岡夏祭り」に参加。真岡市内の四つの高校（真高、真女高、真工高、北陵高）で御輿を担ぎ、地域の

今年最大の行事である九十周年記念式典。生徒会長の挨拶をはじめ、お客様の接待など、役員に重要な役割が回ってきました。緊張しながらも立派にその大役を果たしたと思います。その後、休む間もなく、学校祭。一週間前からは、各展示やパンフレットの作成な

月二十一、二十二日に学校祭が開かれPTAもバザー、農産物を農場で栽培し販売に協力を致しました。十二月二十日校内マラソン大会には先生方又農場の先生方の協力を頂き学年委員の皆様と豚汁のサービスを行い生徒達から大変好評でありました。又当日延人数五十人の方々から協力を得ることが出来ました。研修委員会が行いました、ワープロ講座、介護講座、農業講座も多数参加を戴きました。広報委員会では年二回広報紙を発行しました。

挨拶と報告

PTA会長

小川 四代 治



同窓会の皆様には、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。又PTA活動に對しまして日頃より御指導、御支援を賜り深く感謝いたしますと共に、厚く御礼申し上げます。

平成七年度より総合選択制高校としてスタートし今年度第一回の卒業生を送り出すことになりました。卒業生のうち進学も百名を超え就職率も百パーセントに近い素晴らしい実績を上げることが出来、先生方の日頃からの生徒一人一人に対し御指導をして頂いた結果だと感謝致します。商業、家政系の実習室も現在最新の備品が導入され、教養福祉科もリハビリ室が完成すると設備も全部そろそろです。

科）山形知夏さん（情報処理科）が選出されました。これから三人を含む新生徒会役員のメンバーも、皆やる気十分で、今後の活躍が大変期待されます。

最後に今後共、PTA活動に同窓会皆様方の御指導、御支援をよろしくお願い申し上げますと共に、北陵高同窓会の益々のご発展とご活躍をお祈り致します。

ど、連日夜遅くまで準備をしていました。学校祭当日も、餅つきやお客様の案内など、ひとりひとりが責任をもって仕事をしていたと思います。同窓会の方々にも、色々な面で協力いただきましたが、在学生の活躍ぶりをご覧いただけたいと思います。

このような様々な活動において、同窓会各位のご協力なくして成功はなかったと思います。今後、生徒会活動に対し、変らぬご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

同窓会の皆様には、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。又PTA活動に對しまして日頃より御指導、御支援を賜り深く感謝いたしますと共に、厚く御礼申し上げます。

活動報告

平成九年度 農業クラブ活動について

農業クラブ顧問
横山 孝司

校内の農業クラブ活動はほとんど一学期中に終了してしまします。農業クラブ説明会や総会、競技会・発表会などの校内選考会、県大会など四ヶ月間の中にぎっしりと詰め込まれています。今年も全ての行事にクラブ員は全力を尽くして取り組んできました。

ここで、一年間の農業クラブ活動をそれぞれの行事毎に振り返ってみていきたいと思います。

一、農業クラブ説明会
四月二十三日(水)、一年生を対象に本校体育館に置いて農業クラブの活動について説明会を開いていますが、今年是一年生の興味関心を引こうと役員が工夫をしました。まず、鑑定競技会の説明では、各学科毎に三問の問題を設定し、司会者が生徒席を回りながら質問をして正解者には、記念品をプレゼントしました。また、測量競技の説明では、ステージで実際に実演しました。

二、農業クラブ総会
五月七日(水)、農業科の全生徒を対象に体育館で農業クラブの総会を開きました。今年度で農業科のクラスが九クラスとなり今後もこの状態で農業クラブの活動を行うわけですが、単独農業高校であった頃は、十八クラスもあった時代があります。大変羨ましい限りです。現在は、ちょうど半分であるため農業クラブの予算も途中で値上げされていますので半分というよりはむしろ少ない状況です。大変羨ましい限りです。現在は、ちょうど半分であるため農業クラブの予算も途中で値上げされていますので半分というよりはむしろ少ない状況です。



三、校内意見発表会
五月十七日(水)、本校体育館にて校内意見発表会を開催しました。この大会は、県大会の選手を決めるものでもあり、クラス選考や放課後練習を行ってきたクラブ員も多く、大変実力が伯仲する大会となりました。

今回は、各クラスから代表が一名ずつ参加したので合計九名で行うことになりました。特に、A部門での参加者が多く我が家の経営改善などを主眼とした発表が多く審査員も評価に困ったことと思います。

四、校内鑑定競技会
六月十八日(水)、本校体育館で校内鑑定競技会を行い、校内選考、即ち全国大会選手となるための正式競技となつてから各高校が持ち回りとして実施する県大会としては、本校が初めてです。県大会を行う上で問題となつたのは、会場です。パソコン室には、四十三台ものパソコンがランで繋がっていたこと、取り外し方や取り外した後の保管する場所など、解決すべき事が多くありました。準備については、情報処理の先生方の協力を得て取り外し方を事前に役員全員で学んでおいたので何とかスムーズに移動や復帰ができました。

五、農業情報処理技術県大会
七月十日(木)、本校に置いて農業情報処理技術県大会が開催されました。本県で全国大会が開催された時、リハールを兼ねて県大会を行つていましたが、あくまでも全国大会のリハールとしての運営で、全国大会が正式競技となつてから各高校が持ち回りとして実施する県大会としては、本校が初めてです。県大会を行う上で問題となつたのは、会場です。パソコン室には、四十三台ものパソコンがランで繋がっていたこと、取り外し方や取り外した後の保管する場所など、解決すべき事が多くありました。準備については、情報処理の先生方の協力を得て取り外し方を事前に役員全員で学んでおいたので何とかスムーズに移動や復帰ができました。

六、学校祭
十一月十三日(木)に収穫祭、十五日(土)に学校祭がありました。昨年の収穫祭では、雨天となり苦勞ばかり多く報われることのないものでした。役員は、「絶対雨は降ってほしくないと、テルテル坊主を作つて、農業クラブ室に掛けるなどしてしまし



た。役員は願いが通じたのか、収穫祭当日は晴れ、午後になって曇つたものの、午前中は風もあまりなく絶好の日和になりました。事前に準備をして

七、プロジェクト発表会
平成八年度の一月に校内大会が行われ、A部門の一石川優子さん他十名、B部門二の市川栄一他九名、C部門二の三

九月には、役員立会演説会、役員選出、西真岡保育園との梨狩り交流会、十月には、県連家庭クラブ研究発表会が小山文化センターで実施され、一、二年生七名が参加した。

西真岡保育園との芋掘り交流会は、泥だらけになりながらも、暖かさあふれるふれあいが持てた。下旬には、全校生に呼びかけ、料理講習会が盛大に実施された。

十一月は、二回目的料理こうしゅうかい。ここで得た技術を生かして、学校祭にも参加。手作りクッキーの販売と、活動内容の展示をした。

十二月には、意見発表会及び全国家庭クラブ発表の報告会を行った。学校生活で学んだこと、家庭クラブを通して考えたことなどを発表し合うことによつて、家庭クラブ



平成九年度 家庭クラブ活動について

家庭クラブ顧問
高瀬 則子

四月に、何回かの役員会を開き、計画を検討し平成九年度の家庭クラブ活動がスタートした。

五月には、三年生の役員が中心になり、新入生に家庭クラブの紹介をした。又、家庭クラブ週間になんて花の苗を植木鉢に植え、全クラスに配布。花を咲かせることが出来た。そんな折、全学年が揃った初めての総会も無事終了した。県連家庭クラブ関係も、総会、リーダー養成講習会等、二、三年生の役員代表が参加し、県内の高校生との交流から、よい刺激が得られたようである。

常に役員会を開き、クリーン運動なども自主的活動が軌道にのり出した。七月から八月にかけては、三年生の保育実習が西真岡保育園で実施され、〇歳〜五歳児までの子供達と、一日共に生活する貴重な体験が出来た。一日十名程度、四日間、夏休みには、西真岡保育園の保育実習が実施され、〇歳〜五歳児までの子供達と、一日共に生活する貴重な体験が出来た。一日十名程度、四日間、夏休みには、西真岡保育園の保育実習が実施され、〇歳〜五歳児までの子供達と、一日共に生活する貴重な体験が出来た。

十一月は、二回目的料理こうしゅうかい。ここで得た技術を生かして、学校祭にも参加。手作りクッキーの販売と、活動内容の展示をした。

十二月には、意見発表会及び全国家庭クラブ発表の報告会を行った。学校生活で学んだこと、家庭クラブを通して考えたことなどを発表し合うことによつて、家庭クラブ

関岡任恵他十名が県大会に出場し、B・C部門が県大会で最優秀となり関東大会に出場しました。関東大会では、優秀賞に輝きました。来年は全国大会に出場できるように頑張ってもらいたいと思います。

行事の内容については以上ですが、昨年の十二月には、平成十年度の農業クラブ役員が任命され平成九年度以上に成果のある年にしたいと張り切っています。同窓会員の皆様には今後もご指導をよろしく願っています。

今後の生徒の自主的な活動により、料理講習会、被服講習会、役員研修会など、予定された行事を実施していくことになる。役員はもとより、会員の力で、ますます活気ある家庭クラブ活動ができるよう期待している。

オランダ派遣農業研修に 参加して

栃木県立真岡北陵高等学校 生物生産科3年 吉田 和利

私は、七月十一日から八月六日の約一ヶ月間、オランダの酪農家にホームステイをしました。

私がホームステイしたホストファミリーは、サントインガさんと彼の奥さん、十五歳の男子の子ピーター君、十二歳の女の子のクリナちゃん、四人家族です。他に、犬が一匹と猫が七匹、山羊が十五匹とアヒルが六匹と白馬が一頭、それにウサギとハトが飼育されていま

した。サントインガさんの家では、乳牛を五十頭飼育しています。朝七時と夕方六時の二回搾乳を行います。飼育している牛の種類は、ホルスタインという品種です。作物は、主にトウモロコシを栽培しています。

サントインガさんの家に滞在している間、私は夕方のミルクと搾ったばかりのミルクを子牛に飲ませることが毎日の日課になりました。このほかに、庭に咲いているバラの手入れや納屋の掃除も手伝いました。中でも納屋の掃除は、半日

もかき大変な重労働でしたが、ピーター君とクリナちゃんが手伝ってくれたのでとても楽しく仕事ができました。

オランダでは、パンとジャガイモが主食です。米は、全く食べないと思っていました。時々は、食べるそうです。日本のように米を炊くのではなく、煮て食べているようです。イタリヤのパエリアに近い食べ方でした。

オランダの米は、インデイカ米（長粒種）がほとんどです。日本人が普段食べているような単粒種の米はほとんど食べられませんでした。私は、ジャガイモがあまり好きではありませんでしたが、サントインガさんのお宅で食べたジャガイモは、すごく美味しかったです。

オランダの園芸高校やフラワーオークションを見学したことは、私にとってプラスになりました。オランダに行く前は、自分に対する考え方が少し変わったと思います。

今後、このような機会があるとしたらまた参加してみたいと思っています。最後にこの農業研修に際して、多くのご支援ご援助を頂きました関係機関を始め、多くの方々、本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

今年度のオーストラリア海外研修は、平成九年十二月二十一日(日)～平成十年一月六日(火)の十六泊十七日にわたって行われました。研修は、農業研修と福祉・商業研修の二コースが設定され、農業に六名、福祉・商業に十四名の生徒が参加しました。

オーストラリア 研修に 参加して



少し惨めな気分にはせられた。このオーストラリア研修の体験を生かし、私がもう一度海外にでたいよう過ぎていきたい。

「地平線へと続く農地」
生物生産科三年 上野忠邦
私は、ピーターさんの家にホームステイした。ピーターさんの家では、羊を二、〇〇〇頭、馬二頭、鶏十羽、シードック二頭などを飼っていた。驚いたのは、農地の広さだ。見渡す限りの牧草地。他の家が見えない。プロペラ機では行けそうもない高く青い空。

私は、そんな中で、羊追いや木の伐採などをしてきた。毎日の生活は、日本と比べてゆっくり時間が過ぎていくように感じられた。彼らには、余裕があるのか。日本人のような落ち着きのなさを感ずることはなかった。仕事の合間に、釣をしたり、川で泳いだり、大晦日には、ニューイヤーパーティをしたりして大変楽しかった。またオーストラリアに行きたいと思った。ホームステイ先のピーターさんそして引率の先生や色々な方に支えられて海外研修を無事終えることができました。大変お世話になりました。

「温水と電気の大切さ」
情報処理科二年 山形知夏
オーストラリアの温水が大切だということを知った。「ホテルでシャワーを浴びていたら、突然温水から冷水に変わって驚いた。」等の記事を読んだ。心より感謝申し上げます。

「進路指導部長 川口 滋」
もうすぐ平成九年度も終わろうとしています。本年は何と言っても真岡北陵高校の新学科、第一期生の卒業の年であり、山口校長先生を始め各学科主任・各担任の先生方が進路情報を集め、体当りの進路開拓をなさって下さいました。そのおかげを持ちまして、上々であったと考えております。後に掲げる状況を表をご覧になっていただければおわかりの通り、専門性を生かして、生徒一人一人の希望に合った進路指導ができたのではないかと考えております。

「進学について」
四年生大学は宇都宮大学・茨城大学の農学部に進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

進路状況

進路指導部長 川口 滋

もうすぐ平成九年度も終わろうとしています。本年は何と言っても真岡北陵高校の新学科、第一期生の卒業の年であり、山口校長先生を始め各学科主任・各担任の先生方が進路情報を集め、体当りの進路開拓をなさって下さいました。そのおかげを持ちまして、上々であったと考えております。後に掲げる状況を表をご覧になっていただければおわかりの通り、専門性を生かして、生徒一人一人の希望に合った進路指導ができたのではないかと考えております。

「進学について」
四年生大学は宇都宮大学・茨城大学の農学部に進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

海外研修

「進学について」
四年生大学は宇都宮大学・茨城大学の農学部に進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。

「就職について」
専門学校へは上級の資格取得を目的に六十三名が進み、今後の活躍が期待されます。



平成9年度の進路状況 平成10年1月現在

【3学年在校生】

男子	101名
女子	134名
合計	235名

【進学】

	国立4年制大学	私立4年制大学	短大	大学別科専攻科等	専門専修学校	教育訓練施設等	進定	進未	合計
男子	1	10	4	1	28	5	5	5	53
女子	1	2	14	0	35	2	2	2	56
合計	2	12	18	1	63	7	7	7	110
	(1)	(2)	(4)	(2)	(23)	(8)	(1)	(41)	

※ () 内の数字は昨年度のもの。

【就職】

	管内	県内	県外	自衛隊	自営	在家	就職未定	合計
男子	19	13	6	3	4	0	3	48
女子	27	25	6	0	1	5	14	78
合計	46	38	12	3	5	5	17	126
	(123)	(1)	(4)	(0)	(138)			

※ () 内の数字は昨年度のもの。

編集後記

昨年秋の創立九十周年記念式典と記念事業のすべてが、順調な経過で有終の美を飾ることが出来ました。この事柄を私共編集委員一同心より喜んでおります。このたびの会報は、そのまま記念特集号に致したいと思いをこめてまとめて見ました。これから百周年に向けて、本校の益々の発展を心より願うものであります。編集委員長 井野 博